

パートII. 旧約時代

9章 律法と幕屋

イントロダクション

1. 「神の国と悪魔の国の葛藤」というテーマに沿って聖書を読み解いている。
 - (1) この葛藤は、創世記3章以来続いているものである。
 - (2) この葛藤は、黙示録20～21章で終わる。

2. パートI. 葛藤の舞台設定 (1～3章)
 - (1) 神は、人類を臣民とする神の国を造ろうとされた。
 - (2) サタンは、悪魔の国を作り、自らが王になろうとした。
 - (3) 神は、創世記3章15節で対抗策を啓示された (原福音)。

3. パートII. 旧約時代 (4～17章)
 - 4章 カインとアベル
 - 5章 大洪水
 - 6章 バベルの塔
 - 7章 アブラハム契約
 - ①神は、アブラハムとその子孫を用いて、全人類を救おうとされた。
 - ②契約の民は、カナン人との同化を避けるために、エジプトに下った。
 - ③契約の民は、ゴシェンでエジプト人から分離して一大民族として育った。
 - ④彼らの使命は、カナンの地で神の栄光を表わすことである。
 - 8章 出エジプト
 - 9章 律法と幕屋
 - ①これからどのように生きれば良いのか。
 - *この質問に対する回答は、モーセの律法の中にある。
 - *モーセの律法は、シナイ契約の条項である。
 - ②これからどのように神を礼拝すればよいのか。
 - *この質問に対する回答は、幕屋の中にある。
 - *幕屋は、神に近づくための仕掛けである。
 - ③悪魔の策略
 - *イスラエルの民を誘惑し、律法に違反するように仕向ける。
 - *神の忍耐を試す。

4. アウトライン
 - (1) 律法の役割

(2) 幕屋の役割

(3) 神の忍耐

律法と幕屋をめぐる神の国と悪魔の国の葛藤について学ぶ。

I. 律法の役割

1. 神は、イスラエルの民とシナイ契約を結ばれた。

(1) モーセの律法は、シナイ契約の条項である。

①モーセの律法には、613の命令がある。

②律法が与えられた目的は、民の生活を正しい方向に導くためである。

③律法には、民の弱点（背教）にブレーキを掛けるという目的がある。

④メシアが誕生する家系を清く保つことが、最優先課題である。

(2) 律法の時代は、出エジプト19:1から使徒1章の終わりまで続く。

①この時代、イスラエルの民は、律法に従うように命じられていた。

②1つでも破ったなら、律法全体を破ったことになる（ヤコ2:10）。

③モーセのような預言者が登場したなら、その方を信じることも期待された。

*申18:15~19

2. 結果的には、民は律法を守ることに失敗した（ロマ10:1~3）。

(1) 彼らは、自らの義を立てようとして、抜け道を作った。

①ラビたちが作り出した口伝律法がそれである。

②また彼らは、旧約時代の預言者たちに従わなかった。

③さらに、イエスをメシアとして受け入れることもしなかった。

(2) イスラエルの民の不信仰に対する裁きは、複数ある。

①アッシリア捕囚

②バビロン捕囚

③エルサレム陥落と世界への離散（紀元70年）

④患難期（ヤコブの苦しみの日）

3. 神の裁きは、イスラエルの民を悔い改めに導くためのものである。

(1) 患難期の最後に、イスラエルの民族的救いが成就する。

II. 幕屋の役割

1. モーセが山頂で神のことばを受けている間に、麓では異変が起きていた。

(1) 金の子牛事件

- ①民は、モーセが手間取っていると感じた。
- ②神が民に必要なものを与えておられる間に、民の心は神から離れて行った。
- ③神の時を待つことができず、自分の計画に走った。

(2) 民は、自らの手で、自分たちを守り導いてくれる神を造り出そうとした。

- ①アロンは、金の耳輪（エジプトから受け取った品）を集めさせた。
- ②それをを用いて金の子牛を作った。明らかな律法違反である。
- ③民は、偶像礼拝のためには犠牲をいとわなかった。
- ④彼らは、出来上がった金の子牛の周りで歌い踊った。

(3) 神は激怒し、イスラエルの民を滅ぼそうとされた。

- ①モーセの執りなしの祈りがなかったなら、民は抹殺されていた。
- ②神は、モーセの祈りに答えて怒りを静められた。

2. 金の子牛事件の後、幕屋を制作するようにという命令が与えられた。

(1) 幕屋は、神が聖であることを教えるための視聴覚教材である。

- ①民は、いけにえの動物や祭司たちを通して、神が聖であることを学んだ。
- ②また、聖と俗とを混同することは許されないということも学んだ。

(2) 罪人は、そのままの姿では神のもとに出ることができない。

- ①神に近づくためには、神が用意された方法によらなければならない。
- ②罪の赦しのためには、血の犠牲が必要である。
- ③幕屋は、そのことをイスラエルの民に教えた。

3. 幕屋が完成したとき、神はそれを認定し、そこをご自身の宿りの場とされた。

(1) シナイ山を覆っていた雲が地上に下り、幕屋を覆った。

- ①【主】の栄光が幕屋に満ちた。
- ②これは、幕屋の中（聖所と至聖所）に満ちた超自然の輝きである。
- ③これは、人間が直視することのできない光である。

(2) シャカイナグローリーが宿らないなら、幕屋は、ただの天幕に過ぎない。

- ①それと同じように、もし神と出会わないなら、聖書は単なる本である。
- ②信仰をもって読み始めると、神のことばであることが分かるようになる。
- ③出エジプトの出来事の目的は、イスラエルの民が神を知ることにあつた。
- ④神を体験的に知らなければ、約束の地は祝福の地とはならない。

(3) 旧約時代においては、幕屋は罪人が神に近づくための唯一の方法であった。

4. 新約時代になると、別の方法が啓示された。

(1) その方法は、幕屋が予表していたものである。

①幕屋全体が、メシアの型になっている。

(2) 神の子は、人間の間幕屋を張られた。

①これを受肉という。

②このお方の内に、シャカイナグローリーが宿った。

③このお方は、罪人のいる所まで下り、和解の道を開いてくださった。

④このお方は、すべての人が神に近づくことのできる道を開いてくださった。

⑤私たちは、このお方を通して父なる神に近づくことができる。

III. 神の忍耐

1. カデシュ・バルネア事件は、神の忍耐が試された事件である。

(1) 約束の地との国境に来た時、モーセは12人の斥候を派遣した。

①彼らは、40日間その地を歩き巡り、パランの荒野のカデシュに帰還した。

2. 相反する報告

(1) 10人の報告は、自らの主観を交えた悲観的なものであった。

①そこは良い地であることは認めた。

②しかし、その地の住民は強力であると報告し、民の心をくじいた。

③彼らの報告は、不信仰と敗北主義に満ちたものであった。

④否定的なことばは、容易に集団全体に悪影響を及ぼす。

⑤不信仰の背後に、サタンがいることは言うまでもない。

(2) 2人の報告は、積極的なものであった。

①エフンネの子カレブとヌンの子ヨシュア

②この2人は、民を鼓舞し、約束の地に入ることができると主張した。

3. 民の反応

(1) 約束の地で殺されるより、荒野で自然死を迎えたほうが良いとつぶやいた。

①ここで、神の忍耐が切れた。

(2) 神は、その通りにしようと言われた。

①エジプトを出た世代の者は全員、荒野で死ぬようになる。

- ②しかし、カレブとヨシュアは、約束の地に入るようになる。
- ③さらに、20歳以下の子どもたちも、そこに入るようになる。

(3) イスラエルの民は、荒野で40年間放浪することになった。

- ①40年という期間は、斥候が行き巡った40日を基に決められた。

(4) これ以降、カデシュ・バルネアの出来事が繰り返し語られるようになる。

- ①この出来事は、回帰不能点を越えた典型的な例となった。

*申1:19~46、詩95:10~11、106:24~27、アモ2:10、5:25

*1コリ10:5、ヘブ3:7~4:13

- ②回帰不能点を越えたなら、いかに悔い改めても状況は変化しない。

(5) ヘブル3:7~11

Heb 3:7 ですから、聖霊が言われるとおりで。／「今日、もし御声を聞くなら、

Heb 3:8 あなたがたの心を頑なにしてはならない。／荒野での試みの日に／神に逆らったときのように。

Heb 3:9 あなたがたの先祖はそこでわたしを試み、／わたしを試し、／四十年の間、わたしのわざを見た。

Heb 3:10 だから、わたしはその世代に憤って言った。／『彼らは常に心が迷っている。／彼らはわたしの道を知らない。』

Heb 3:11 わたしは怒りをもって誓った。／『彼らは決して、わたしの安息に入れぬ。』

- ①イスラエルの民は、イエスがメシアであることを否定した。
- ②その時点で、彼らは再び回帰不能点を越えた。
- ③その結果、紀元70年のローマ軍によるエルサレムと神殿の崩壊が訪れる。
- ④それ以降、イスラエルの民は世界に離散した民となる。

まとめ

1. 神の国と悪魔の国の戦いは、メシアを輩出するイスラエルの民を巡る戦いである。
2. 神はイスラエルの民の罪をその都度裁かれた。
3. しかし、悪魔が彼らを滅ぼすことはお許しにならなかった。
4. この戦いは、まだまだ続く。